国立病院長就任のご挨拶

―地域精神医療への貢献を目指して―

独立行政法人国立病院機構琉球病院　病院長　福　治　康　秀（7期生）

私は、昨年７月に前院長村上優先生の後任として、国立病院機構琉球病院の院長に就任しました。琉球大学医学部医学科同窓会の皆様には、これまでの温かいご支援に感謝すると同時に、今後ともご支援・ご協力をいただくことがあると思います。どうぞ、よろしくお願いします。

まず、簡単に自己紹介をします。私は、首里高校を卒業した後、ちょっと回り道をして琉大医学科に７期生として入学しました。学生の頃は、医バドと全学バドを掛け持ちしバドミントンに明け暮れ遠征にばかり行っていました。卒業後すぐ琉大精神神経科に入局し、大学で勤めた後、平成21年に琉球病院に赴任、平成22年に副院長、昨年院長になりました。その際は、琉大精神科の近藤教授をはじめ、前教授の小椋先生、前院長の村上先生、そして多くの先生方にお世話になりました。どうもありがとうございました。琉球病院では、大学病院ではなかなか経験できない司法精神医学、アルコール・薬物依存を中心としたアディクション医療、重度心身障害児・者医療などの分野の経験もでき、さらに幅が広がったと感じています。

琉球病院は、沖縄で最初にできた単科精神科病院で、金武町にあり406床を有しています。昭和24年（1949年）に創立しましたので、今年で66年になります。このような歴史のある病院の院長に就任できたことは、とても光栄なことだと思っています。当初は琉球政府立、復帰後は国立、そして平成16年からは、独立行政法人国立病院機構へ移行して今日に至っています。独立行政法人へ移行後は、独立採算を求められ、補助金はほぼ全額打ち切りとなっています。そして、今年度からは非公務員化となったため、年金や雇用保険、労災保険などが病院負担に切り替わり、経営的に難しい状況となっています。当院の経営状況は、この７年間ずっと黒字で推移してきました。非公務員化という厳しい中、黒字が維持できるかが今の私の最大の課題です。

この７月に、全８病棟のうち３病棟（２つの精神科病棟と認知症病棟）の建て替えが完成します。患者さんのアメニティも上がり、さらにより良い医療を提供します。また、病棟移転に伴い病棟再編を行い、さらに診療機能を上げる計画です。重度心身障害児・者病棟（重心病棟）の建て替えも進めていますが、建設予定地の地下に埋没管が見つかったことで工事が遅れています、工法の再検討、新しい排水路の建設、さらなる資金繰り、隣の米軍基地（キャンプハンセン）との交渉などやることが山積みです。ただし、重心病棟もかなり古く、患者さんやご家族のことを思い、必ず建て替えを完遂すべく全力でがんばる覚悟です。

精神医療は、今後入院医療から地域医療へ大きく変わり、いかに地域で患者さんたちを支えていけるかが要となります。当院では、年間8000件の訪問看護を中心に、各地域の関連機関や関連スタッフとの連携を密に行い、地域で患者さんを支えてきました。医療観察法の入院と外来の両方を担っている県内唯一の医療機関としても、その役割をしっかりと果たすべく、遠方にも訪問看護を行っています。今後は、各地域に関連機関を増やし、さらに連携を深めることで、患者さんを支える包括的な地域精神医療・ネットワークを構築していきたいと考えています。また、当院では、治療抵抗性統合失調症の唯一の治療薬であるクロザピンという抗精神病薬を数多く使用しています。無顆粒球症を筆頭に多くの副作用を持つ薬ですが、しっかりとモニタリングすることで安全に使用でき、かつ効果も高いです。この薬を、県内全域で使用できることを目指し、難治性精神疾患地域連携事業という国からのモデル事業を、県とタイアップして各関連機関の協力のもとに立ち上げ進めているところです。また、m-ECT（修正型電気けいれん療法）も継続し、適応のある方に提供していきます。発達障害を中心に児童思春期精神医療を担っている「こども心療科」も、さらに診療機能を充実させていきたいと考えています。災害派遣精神医療チームDisaster Psychiatric Assistance Team（DPAT）の先遣隊の役割をいただき、沖縄県内の災害医療・保健団体と連携を深めていきます。その他、アディクション医療や認知症医療など、各専門医療を進めている点が、当院の特徴です。公的病院としての役割を果たすべく、各専門医療をさらに進めていきたいと考えています。

話は変わりますが、２年前の医学科同窓会で、我々７期生が卒後20周年にあたり「十人十色　多様な生き方を選ぶ～医師のワークライフバランスを考えて～」というテーマでシンポジウムを行い、それを機にさらに医師のライフサイクル・ワークバランスの改善に、関心を寄せ続けてきました。当院は妊娠出産育児支援に力を入れており、最近も２人の女性医師のおめでたい話があり、医局員みなで喜んでいます。この、医局の雰囲気を続けたいと思っています。院長に就任して、約11か月が過ぎようとしています。日々、めまぐるしく過ぎておりますが、管理面の難しさを感じると同時にやりがいも感じております。

常日頃から、同窓会の皆様には、あらゆるところでお世話になっていますが、今後ともご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

完成予想図